



7トレンチ 建物・溝等検出状況①(南から)



7トレンチ 建物・溝等検出状況②(南西から)

古代の集落

1・2・3・7・9トレンチにおいて、掘立柱建物を検出しました。現在までのところ、復元可能な建物が29棟見つっています。出土遺物や周辺の遺構の状況から、おおむね飛鳥時代～平安時代に属する建物と考えられます。

中でも、今回の調査区の中央部分では建物が集中して見つかりました。各建物の詳しい時期はこれからの整理作業で明らかにしていくことになりますが、建物の主軸方位を同じくする一群が複数あることから、建物が数時期にわたって建てられていた可能性があります。古代において、当地に継続して集落が営まれた様子が明らかとなりました。

また、これらの建物群の間にある320溝からは、大量の土器が出土しました。これらの土器は飛鳥時代に属するもので、土馬など特殊な遺物も見つかっています。



7トレンチ 320溝 土馬出土状況(南から)



7トレンチ 1118溝 遺物出土状況(北から)



6トレンチ 123溝と124溝(南西から)

弥生時代以前

2・6・8トレンチにおいて、複数の大きな溝を検出しました。

123溝からは、弥生土器が数点出土しました。また、124溝の肩口からはサヌカイト剥片が大量に出土しました。その中には、5mm程度の小さな剥片も含まれることから、この場所で石器を製作していたことが考えられます。

今回の調査区の東半では、主に縄文時代に属するサヌカイト製石鏃が複数出土しました。縄文時代に当地に獲物を追って人々がやってきたことを物語っています。



2トレンチ 124溝 サヌカイト剥片出土状況(西から)



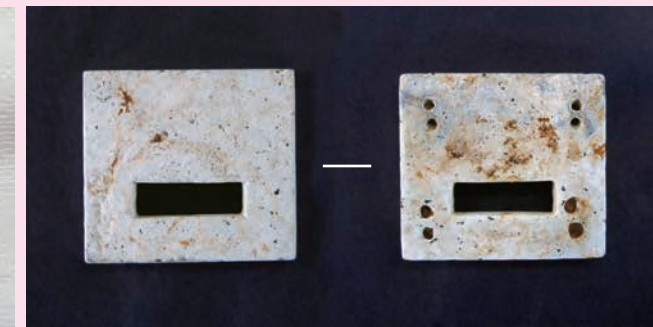
有舌尖頭器



サヌカイト製石鏃



①小型海獣葡萄鏡



②石製腰帯具(巡方)



③土馬(須恵質)

主な出土遺物

今回の調査では、特殊な遺物がいくつか出土しました。

①は、9トレンチ南端の包含層中から出土した直径約4cmの小型海獣葡萄鏡です。大阪府内での出土は2例目であり、全国的にも十数例しか見られないものです。類例資料から7世紀～8世紀に属するものと考えられます。

②は、1トレンチ南東端の包含層中から出土した長さ3.4cmの方形の石製腰帯具です。

③は、7トレンチ320溝から出土した長さ約23cmの須恵質の土馬です。四肢と尻尾が欠損していますが、頭部が良好に残存しています。馬具の表現が見られないため、裸馬を模したものと考えられます。共存遺物から飛鳥時代に属すると考えられます。

国立循環器病研究センター建替整備事業に伴う吹田操車場遺跡の調査 現地説明会資料

編集・発行 公益財団法人大阪府文化財センター
〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号
発行日 平成27年3月7日

国立循環器病研究センター建替整備事業に伴う

吹田操車場遺跡の調査

平成27年3月7日



7トレンチ 320溝 遺物出土状況(北から)



4トレンチ 群集土坑(東から)



群集土坑 断面①



群集土坑 断面②

群集土坑

1・4・5・9トレンチにおいて、群集土坑を検出しました。今回の調査ではおよそ800基の土坑が見つかりました。平面形は円形や不整形のもののが大半で、径はおよそ1～2mを測ります。深さは浅いもので0.2m程度、深いものでは1m前後のものが見られます。

土坑は、様々な土の塊で埋め戻しているもの(断面①)と、自然に埋まったと考えられるもの(断面②)の大きく2種類あります。土坑内から遺物が出土した例は多くありませんが、出土遺物から古墳時代後期に属する土坑が多くを占めると考えられます。また、これらの土坑の性格は、埋土や掘削深度、周辺の遺跡環境から推測すれば、粘土採掘坑の可能性が高いものと言えます。



群集土坑 遺物出土状況



群集土坑 遺物出土状況

今回の調査では、古墳時代後期を主体とする時期に形成された土坑群や古代の集落の跡が良好に残存する様子を知ることができました。本調査地から北西に1kmほど離れた国指定史跡である吉志部瓦窯や七尾瓦窯との関連性も考えられることから、当地周辺の歴史を知る上で注目される調査成果が得られました。

